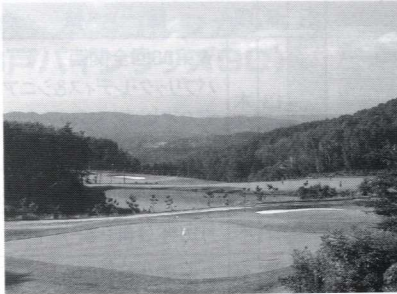


は本誌センターページに掲載の無料エントリーサービスを利用のこと。南阪奈道・葛城ICから約25分。  
0745(67)1111

### 伊賀の森CC

#### 3月19日プレオープン

パブリックコースの「伊賀の森カントリークラブ」が3月19日(月)にプレオープンする。旧エリモGC(伊賀市・18H)で、詳細は次号で紹介の予定。



伊賀の森CC

### 各府県ゴルフ連盟(協会) 昨年の主要競技成績

#### 〈滋賀県ゴルフ連盟〉

#### 第7回滋賀県シニア選手権

#### 11/1・タラオCC

#### 男子の部(グロス)

①池田 正明	36	36	36	74	72
②中森 敏	39	35	35	74	72
◇女子の部(グロス)					
①山崎安城子	40	37			
②本田 房江	39	40		79	77
〈京都府ゴルフ協会〉					
第15回京都府アマ大会					
10/24日清都CC					
◇男子の部(ダブルペリア)					
①寺島 功	70	0			
②江上 明	71	0			
11/7京都GC					
◇女子の部(新ペリア)					
①立花 厚子	68	80			
②細川 信子	69	20			
〈大阪府ゴルフ連盟〉					
大阪府ゴルフ選手権					
11/14泉ヶ丘CC					
◇男子の部					
①左近 哲也	34	34			
②森田 廣宣	33	35			
◇女子の部					
①松原 由美	37	39			
②米沢 有	37	36		75	75
〈兵庫県ゴルフ連盟〉					
兵庫県レディース大会					
11/28ジャパンメモリアル					
①平本真奈美	37	37			
②尼子 佳代	36	39		78	76
〈奈良県ゴルフ協会〉					
県民ゴルフ競技秋季大会					
男子スクラッチの部					
10/12飛鳥CC					
①山田 泰弘	39	39			
②梁川 昌三	37	39		41	39
③78	78				
女子スクラッチの部					
10/25奈良CC					
①河北 貴子	37	37			
②日笠山勝美	42	38		40	40
〈和歌山県ゴルフ連盟〉					
平成23年決勝(選手権)					
11/10国木原GC					
◇男子の部					
①中川 喜雅	37	37			
②川井 弘昌	37	34		33	33
◇女子の部					
①山下 信子	41	36			
②岡 智恵子	43	39		77	77
◇シニア男子の部					
①田中 仁	38	38			
②酒田 節郎	41	37		76	76
◇シニア女子の部					
①田幡 道子	37	43			
②吉川 清美	42	43		85	80
◇男子グランドシニア					
①佐武 利美	39	38			
②小野田守孝	38	40		78	77

### ◆人事異動

#### ◇千刈CC

2012年1月付で就任

理事 長 向井孝史氏

総支配人 池戸秀行氏

支配人 平井 豊氏

◇PGMホールディングス

1月25日付で就任。

代表取締役兼に神田有宏氏就任。(株)アコディア・ゴルフの前取締役執行役員。

### テクノアドバンスが 考える省エネ：第11弾 ◆年頭に当たって思うこと◆

2012年初めの寄稿となりまして、年頭に当り少し思うことを述べてみます。先ず1つ目に、1か月余りで東日本大震災から1年目を迎えるということがあります。この震災は、いくつもの教訓を残しました。原子力発電を推進してきた行政の在り方、完全神話の崩壊ともいえる甚大な事故。それにより、既存の原子力発電所を、今後どう対処するかということ。そのためには、より再生エネルギーへの転換が急務である、ということ。2つ目に、昨年の再生エネルギー法案成立に伴い、本年7月からいよいよ実施(施行)されるということ。太陽光発電や風力発電等の需要が飛躍的に伸びることが予想され、そのために買取金額や負担金の設定、ハード面は送電網の整備がどう追いついていくかが、新たな課題になることは必至です。また、今夏の電力供給事情は、昨年にも増して節電を求められることが予想されます。今まで民間レベルでは、経費削減を踏まえた内向きの

省エネ対策が主でしたが、今後は今まで以上に国や行政主導型の取組みにとつて代わることは間違いないと思います。ただ、この経済状況を考えると、企業や個人が、どこまで対応できるかは非常に難しい問題です。震災復興が最優先であることは間違いないかもしれませんが、同時に代替エネルギーを急速に推進して行かなければならないことも事実です。しかし、それには数年または10年単位での時間が必要になります。その間、我々個々がどう向き合うか、どう対処していくか、もはや対岸の火事では済まない、まさに本格的な省エネ元年の年が、この2012年だと思えます。この状況を乗り切るには、今まで以上に一人ひとりがどう考え、どう行動すべきかと、改めて考えさせられる新しい年の幕開けとなりそうです。

昨年より、省エネの手法や取組について色々と書いてきましたが、本年も気持ちも新たに書き続けて参りたいと思っておりますので、宜しくお願い致します。

テクノアドバンス株式会社  
環境開発事業部 森脇玉秋  
06-6390-5030